

さて、いよいよ競走馬の調教です。



画面左端に並んでいるアイコンの一番上、『厩舎』アイコンをクリックしてください。



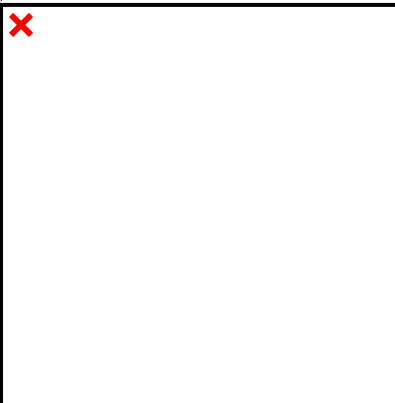
-クリックすると、厩舎ウィンドウが開きます。



この中から『馬一覧』アイコンをクリックしてください。

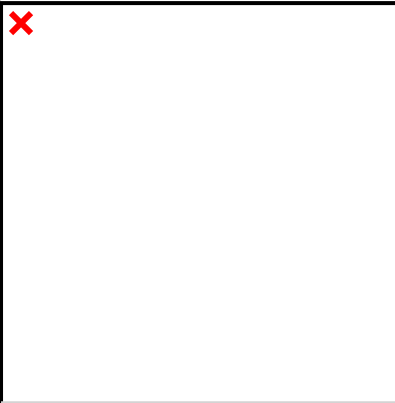
クリックすると、馬一覧ウィンドウが開きます。

-その中から先ほど入厩した競走馬をクリックしてください。



クリックすると、馬詳細ウィンドウが開きます。

このウィンドウの左上にある『調教』ボタンをクリックしてください。



クリックすると、馬詳細ウィンドウの左上部分が切り替わって調教メニューが表示されます。



芝のコースを走らせます。  
スピードと瞬発力が上昇しやすいメニューです。



ダートのコースを走らせます。  
スタミナとパワーが上昇しやすいメニューです。



ゲートからのスタートの練習です。  
ここで練習をつめば、スタート時に遅れることが少なくなるかもしれません。



既舎の施設拡張すると、ウッドチップ調教ができるようになります。(事務所 - 施設拡張)

木を細かく砕いて敷き詰めた路面の上を走らせます。  
ダートや芝に比べて疲労がたまりにくく、脚への負担も少ないです。

×

既舎の施設拡張すると、坂路調教ができるようになります。(事務所 - 施設拡張)  
スピードが上昇しやすいメニューです。  
ダートや芝に比べて疲労がたまりにくく、脚への負担も少ないです。

×

プールの場合、他のメニューと設定が異なります。  
・2周/4周/6周  
の3段階から選択してプールの中を走らせます。

全メニュー中で最も疲労がたまりにくく、脚への負担はほとんどありません。  
体重のみを絞り込みたい時に使用すると良いでしょう。

『プール』『ゲート練習』以外のメニューに関しては、調教方法をさらに設定する必要があります。

以下はどういった形式で走らせるかの選択です。

×

調教を行う馬だけを走らせます。

×

調教を行う馬以外にも馬を走らせて競わせます。  
『単走』に比べて疲労がたまりやすいですが、勝負根性が鍛えられます。

×

『プール』『ゲート練習』は選択しません。

×

手綱やムチを使わず、馬の行く気に任せて走らせます。  
疲労はそれほどたまず、脚への負担も少ないです。

×

途中まで『馬なり』で、ゴール前で手綱やムチを使って走らせます。  
『馬なり』に比べて多少脚への負担が大きくなっています。

×

手綱を使い、状況によってはムチも使用して走らせます。  
『馬なり』に比べて疲労がたまり、脚への負担も大きくなっています。

×

途中まで『強め』で直線に入ったら『一杯』で走らせます。  
『強め』に比べて脚への負担が大きくなっています。

×

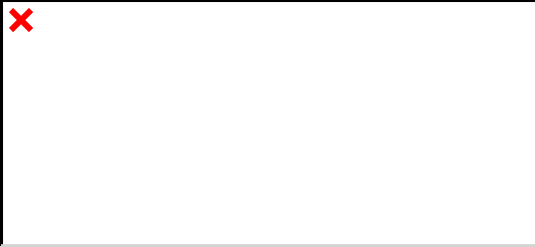
手綱とムチを使って全力疾走させます。  
最も疲労がたまり、脚への負担も大きいです。

×

まずは馬体重を落とすことが重要です。

×

始めは『芝』『ダート』のメニューで『併せ』『一杯』を選択して馬体重を減らしましょう。



徐々に強さの段階を落としてベストの馬体重に近づけましょう。  
コメントを参考にして行うと良いでしょう。

馬体重が整ったら、次は調子です。  
これも馬体重と同様にコメントを確認しながら行うと良いでしょう。  
強さの段階を『馬なり』等にすると、馬の疲労が少ないので良いかもしれません。



調子が整ったらレースへの準備は完了です。

✖

調教で得られる効果は大まかに以下のようになっています。  
 =大きい =普通 =小さい

コース	スピード	スタミナ	持続力	根性	瞬発力	パワー	気性	ゲート	疲労
芝-単走	-	-	-	-	-	-	-	-	-
芝-併せ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ダ-単走	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ダ-併せ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウ-単走	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウ-併せ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
坂-単走	-	-	-	-	-	-	-	-	-
坂-併せ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
プール	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゲート	-	-	-	-	-	-	-	-	-

?

✖

✖

まずは調教の目的について説明をします。  
 主に以下の2つがあります。

- 1.調子を整える
- 2.能力を伸ばす

1.調子を整える  
 購入したばかりの競走馬は、体調が万全ではなく、馬体重もベストな状態より重めになっています。  
 体重が重すぎたり、調子が上がっていないと、レースで全ての能力を発揮できません。そこで、調教を行って馬の体重を整えたり、調子を上げていく必要があります。(画像1)

ただし、過度な調教は疲労が溜まりやすく、故障の原因にもなるので注意が必要です。たまには、『放牧』(画像2)に出したりして休ませてあげましょう。

✖

2.能力を伸ばす

競走馬は調教を行うことで能力を伸ばすことができます。  
 逆に言うと、どれだけ素質があっても調教を疎かになると、全ての能力をを引き出せず「引退」ということになるかもしれません。  
 購入直後の競走馬でフリー対戦に参戦し、全く勝てない馬も調教を積み重ねることで、その能力は徐々に開花していくでしょう。

また、愛馬の『成長型』にも配慮しましょう。  
 競走馬は成長するにしたがって能力の上限が変わっていきます。  
 その上限まで効果的な調教を行って、素質を引き出してあげるのです。  
 特に晩成傾向の競走馬の場合、早い時期に活躍できなくても歳を重ねてから能力が伸びることもありますので、長い目で見守ることが大切です。

上限値のピークは成長型ごとに異なっています。

✖

以下公式から抜粋しました

効果的な調教方法をまとめてくださる方募集してます

